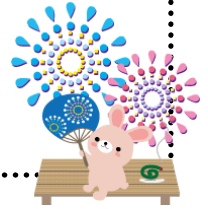




編集・発行
大阪府立
呼吸器・アレルギー医療センター
 大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1
 TEL: 072-957-2121
 FAX: 072-958-3291
 HP: <http://www.ra.opho.jp>
 E-mail: kokyucen@ra.opho.jp



昨今の風疹に大人の患者が多い訳

診療局長 ^{ささへ} 笹部 ^{てつお} 哲生

昨年から流行していた風疹が、今年になって東京、大阪等の大都市を中心に、大流行になりました。その発生件数は、風疹が全数登録制になった2008年以降桁違いの多さです。

全国と大阪府内の感染者報告件数 (感染症発生動向調査報告)

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年 (7月30日時点)
全国	303件	147	89	374	2391	13110
大阪府内	24件	12	9	53	410	2986

流行の傾向

性別では、男性3対女性1で男性が多く罹患しています。年齢別では、男性は30代に最も多く、女性は20代に流行のピークがみられました。元来、風疹は小児期の感染症と思われておりますが、昨今の風疹は大人に多いのが特徴です。その原因は、ワクチン接種制度の歴史の中にあります。

風疹ワクチンの歴史

風疹ワクチンが初めて我が国で制度化されたのは1976年の予防接種法改正で、翌77年から中学生の女性のみを対象とした定期接種が行われました。その制度中、89年に導入された三種混合(MMR)ワクチンに無菌性髄膜炎の副作用が問題になったため、それ以後MMRでのワクチンが中止されても対象者の中で接種を控える傾向がつつきました。

男性にワクチン接種が制度化されるのは、1994年の予防接種法改正まで待つこととなります。この94年の改正で、生後12~90月未満の男女と風疹未罹患の中学生男女の任意接種が制度化されました。風疹未罹患の男女中学生に対する接種は2003年までの経過措置でしたが、あまりよく知れておらず、また本改正で接種は義務から勧奨(努力)となったため接種しなかった対象者が多数いたようです。

風疹ワクチンの影響

ワクチン接種の歴史は現在の風疹の流行に影響を及ぼしております。男性への接種制度化が遅れたため男性に多く発生し、また、ワクチンの副作用や制度移行時の混乱から20代、30代に接種しなかった対象者が多くいたため現在の流行はその世代が中心になっております。小児には、ワクチンの恩恵を受けた対象者が多くいるため、感染者が少なくすんでいると思われまます。

風疹ワクチン接種の必要性

風疹が妊娠初期の妊婦に感染すると、胎児に影響を与え風疹症候群を来す事はよく知られております。本邦のワクチン制度の歴史を知り、妊娠の可能性のある女性やワクチン接種が定かでない男女は、感染拡大の防止のためにも風疹に対する抗体価を調べ、必要あればワクチン接種を考慮してください。

尚、感染症発生動向調査によりますと、大阪府内での風疹の発生状況は5月から6月初めがピークで現在は終息しつつあります。

抗がん剤の通院治療について

外来化学療法科部長 ^{すすき} 鈴木 ^{ひでかず} 秀和

抗がん剤というと怖いイメージを持たれている方が多いと思います。当院は肺がんの患者様を中心に治療させていただいておりますが、ほんの7、8年前まで、抗がん剤治療といえば、長い入院生活を余儀なくされることがほとんどでした。しかし最近の抗がん剤の投与方法、薬そのものの進歩によって、通院で治療を受けることが当たり前の時代になっています。

現在、通院での抗がん剤投与の件数は年間 1500 件程度になり、さらに増える傾向にあります。ここまで通院による投与が広がってきた理由は、抗がん剤の大きな副作用である吐き気に対して、吐き気止めの進歩があったことがあげられます。次いで抗がん剤の副作用として白血球低下や腎障害がありますが、その対処が良くなったこと、さらに一部の抗がん剤は長く続けたほうが良いと証明されたことにあります。

外来化学療法室では、抗がん剤以外にも骨転移の悪化を予防する薬を投与したり、リウマチなどに対する抗体医薬の投与も行っており、多くの患者様に利用していただいております。また投与するだけでなく、看護師よりその後の調子をお聞きする電話訪問も行っています。

このように抗がん剤治療は、さまざまな工夫により安全に行えるようになって来てはおりますが、現在でも初めての抗がん剤の導入は、入院で行い安全性を確認してから通院で投与するように心がけています。



<看護部 誠意と温かみのある優しい看護を目指して⑧>

4A 病棟



4A 病棟は個室(有料)を希望される患者さまが入院される病棟です。睡眠時無呼吸症候群の検査とその治療である CPAP (Continuous Positive Airway Pressure) 療法、化学療法や放射線療法の導入、呼吸不全や肺炎、感染症の治療など、診療科は限定されず様々な検査や治療を必要とする患者さまが入院されています。

患者さまは病状的なことだけではなく、「プライベート空間を大切にしたい、家族と過ごす時間を大切にしたい」と考えて個室を希望される方も多く、スタッフは若手もベテランも、それぞれの個性とこれまでに培った知識や技術・経験を活かし、最新の知識を取り入れながら日々看護を行っています。

看護師は、プライバシーが守られた空間だからこそ、時間をかけて患者様の本音や思いを聞かせていただく機会も多いので、常に患者さま一人一人とじっくり関わることを心がけています。人生の先輩である患者さまには教えられることも多く、それもまた、私たちの英知になっています。

病室にはユニットバスやミニキッチン設備のある病室もあり、周囲の人たちに気兼ねすることなく過ごして頂くこともできます。しかし、入院生活は限られた空間だけになりがちです。そこで、看護師は日常では感じられにくい四季を感じられるよう、季節に応じて病室の飾りつけを工夫したり、クリスマスカードなどをお渡ししています。患者さんと共に充実した生活を日々過ごせること、その時間を大切にすること、それが私たちの目標です。

患者様やご家族を自分の家族のように思い、「ここに入院してよかった」と感じていただけるよう、今後も患者様一人一人に寄り添った、やさしく、丁寧な看護を心がけていきたいと思っております。



8月の教室案内

*カンガルー教室

● 8月 7・14・21・28日

午後 1 時～

第 1 会議室

*禁煙教室

● 8月 1日

午後 3 時 30 分～

医療情報コーナー